

福島第一原子力規制事務所の 業務について

2014年8月4日

原子力規制庁
福島第一原子力規制事務所

本日の内容

1. 福島第一原子力規制事務所の概要
2. 福島第一原子力規制事務所の活動の紹介
 - (1) 事務所運営
 - (2) 保安検査
 - (3) トラブル対応例
 - (4) その他活動例
3. 福島第一原子力発電所の課題

1. 事務所の概要

福島第一原子力規制事務所の位置

福島第一原子力発電所から約25km
福島第二原子力発電所から約11km
いわき駅から約28kmの位置。



Jヴィレッジに隣接する広野町サッカー支援センター(JFAアカデミー福島男子寮)の一階に事務所を設け、平成24年10月16日から業務開始

<http://www.nsr.go.jp/jimusho/fukushima1/>
オフサイトセンターは、現在、福島県庁に移転



福島第一原子力規制事務所の体制

事務所は、以下の10名体制
所長(統括原子力保安検査官)
副所長(原子力防災専門官)
原子力保安検査官8名
福島第一原子力発電所には、
24時間態勢で職員が駐在

検査の主たる執務は、原子力発電所内の重要免震棟緊急対策室で行っている。



写真は、事務所開設日朝のミーティング風景
職員同士の情報共有やデスクワークの事務効率化が更に向上するよう改善された。

東京電力からの聞き取り、作業の現場立会及び日々の発電所内の巡視等を通して、東京電力が実施するプラントの維持管理及び信頼性向上並びに廃炉への着実な実施を監督。

2. 事務所の活動の紹介

事務所運営

現場巡視基本計画（抜粋）： 多種多様な設備の巡視を計画的に実施

曜日		巡視1チーム(午後)	巡視2チーム(午前)
第A週	月	炉注水設備 ・1号機CST炉注水設備	共用プール建屋 ・共用プール ・SFP冷却設備、CD/CF
	火	水処理設備 ・SARRY ・RO設備	5,6号機 ・中央操作室 ・RO設備(Fエリア)
	水	電源設備 ・所内共通M/C 1A,1B ・電源車	1, 2号機及び3, 4号機 ・中央操作室

検査官特命担当表（抜粋）： 設備毎の担当責任の明確化

○:主担当 △:副担当

項目	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
全体纏め	○	△								
水処理設備(ALPS,SARRY,KURION等設備)						△		○	△	
処理済水の移送・タンク管理								△	○	
炉注水設備(ホウ酸水設備含む)						△				○
窒素供給設備							○			△
PCVガス管理装置				○				△		
使用済み燃料プール及び冷却設備			△			△	○			

保安検査の実施

- ・事業者の保安活動のプロセスを確認
- ・実際に行われる保安活動の状況を直接確認



保安活動に関するPDCAが維持される仕組み
及びその活動状況並びにその結果になっていることを確認



平成25年度第1回保安検査初回会議の様子。2013/6/5

事業者が行う保安活動(実施計画に定める保安のための措置の実施状況については、以下の項目を中心として確認を行う。)

品質管理

保守管理

放射性廃棄物管理

保安教育

運転管理

放射線管理

保安に関する記録

その他

保安検査の実施状況(4号機燃料取り出し)

- ・設備の設置、試運転等の現場、記録確認
- ・現場調査の実施状況の確認
- ・仮設監視装置の設置状況の確認

1. 検査実施期間

平成25年11月13日～

燃料取出作業終了まで(約1年間)

2. 検査項目

- (1) 燃料取出に係る準備状況の確認
- (2) 燃料取出の実施状況の確認(立会)
- (3) 燃料取出に係る記録等の確認



原子力保安検査官が4号機原子炉建屋オペレーティングフロアの燃料取扱機にて、使用済燃料取出・収納の確認を行う。

2013/11/16

保安検査の指摘事例1（汚染土壌 の仮保管）



改善前



改善後

保安検査の指摘事例2(汚染物品の仮置き不備)



改善前



改善後

トラブル対応事例 (H4タンク漏えい土壌回収)



掘削部分の全景



ゴムマットと△の鉛板で遮蔽



測定器設置・測定状況

トラブル対応事例(4000tonノッチタックからの漏えい)



写真1:漏えいが確認されたノッチタンク



写真漏えい箇所

その他活動例 (MP周辺状況確認)



3. 福島第一原子力発電所の課題

【設備面】

◆ 事故後の状況

- プラント安定化を迅速に行うため、仮設設備で対応
- その後、信頼性向上対策を進めてきた
- 良好事例:

① 本設並みの信頼性と遠隔監視及び遠隔操作が可能

- 受電設備、炉注設備など

② 不要耐圧ホースの整理、処分

- 1～4号機タービン建屋内耐圧ホース

◆ 課題:

信頼性向上対策で取り残された設備への対応

- 事故直後に設置、又は、その後緊急で設置された設備の管理が出来ていない

- 緊急用汚染水移送設備(誤移送)、プロセス建屋エリアモニタ(負荷電源の分離)、汚染水タンク監視設備他

【マネジメント】

◆ 発電所の状況

- **高線量高汚染環境下のため、全面マスク等の重装備**
タービン建屋廊下での汚染水漏えい事象(漏えい検知器設置等対応)
- **従来の堅牢な発電所の設備との相違**
炉注水流量低下(運転上の制限からの逸脱)事象(CST炉注設備等対応)
- **日々、工事が進捗し、変化を続ける現場や設備**
H4タンクエリアからの漏えい事象(巡視強化等対応)

◆ 課題

- **組織として現場、機器及び体制の現状把握できるプロセスの構築**
- **目的が達成できる計画プロセスとその実施過程の監視・検証プロセスの構築**
- **変化する現場、設備を想定して、その変化を先取りできるマネジメントシステムの構築**

【意識面】

◆ 事故直後の対処療法的意識からの脱却

- 仮設設備だから・・・
- 環境がきびしいから・・・
- リソースがこれだけだから・・・
- 現状でも安定しているから・・・

◆ 課題

- リーダーシップの強化
- 目的意識、問題意識を持った活動の実践
- 現状打破のため日々改善、進化する強い意識